



赤松学舎 世田谷区立松沢小学校

# 学校だより

3月号

令和7年2月27日(木)

世田谷区立松沢小学校 校長 寺崎 晶子

URL <http://school.setagaya.ed.jp/mawa/>



## 子供たちの手で

副校長 増田 美和

先日、新BOPの職員の皆さんと情報を共有する機会がありました。新BOPでは、たくさんのイベントがあり、毎回たくさんの子供たちが参加して盛り上がるようです。

少しご紹介すると、『キラキラボックス作り』『飛び出すXmasカード作り』『コースター&リストバンド作り』と、タイトルを聞いただけでもワクワクするような手作りイベントや、『三色オニ』『水遊び』『みんなで綱引き』などの運動系イベント、新BOP名物『メンコ』に関しては『メンコ・チャレンジカップ』『メンコ・タッグマッチ』『メンコ・チーム対抗戦』と、いくつもの大会があります。

どのイベントも無料で、新BOPに登録さえしていればだれでも参加することができます。子供の活動に何かと制限が多い昨今、こうしたイベントを通して、子供たちが貴重な体験をしていることを改めて感じました。何でもお金を払えば手に入ると思いがちな世の中ですが、子供たちが自分の手や体を動かし、挑戦し、作り出し、やっと手に入る喜びというものがあります。

本校でも2月に展覧会がありましたが、それぞれの個性が光る素晴らしい作品たちに魅了された方も多かったのではないのでしょうか。

最近AIがアートに大きな影響を与えています。AIや機械に頼れば、人間が作り出すものよりも、精巧でリアルな作品を容易に作ることができるようです。けれども、子供たちは自分の手で作った作品に思い入れや愛着があります。時間をかけ、丹精込めて作ったものほど、他人と比べて上手かどうかは関係なく、誰かに見せたい、大切な作品になるのです。子供が作り手の立場を味わうことは、手に取ったものを通じて、作り手の思いを想像することにもつながります。ものを大切にするという気持ちは、見えない作り手に対する想像力から生まれるとも言えるでしょう。

実は新BOPのイベントの裏では、その準備に大人たちが多くの労力を割いています。すべては子供の成長のため、子供たちの喜ぶ顔が見たいためです。子供たちは、そういった大人の苦労についてはあまり考えることがないかもしれませんが、学校の教育活動の中でも子供たちが主催者側の気持ちを味わえる場面があります。『自分たちで考えてみんなが楽しむ活動』です。具体的には、異学年交流の『うさまつタイム』、学級や学年のイベント、係や委員会、クラブなどの活動です。内容も多種多様で、大人が思いつかないような楽しいアイデアのイベントがたくさんあります。もしかすると、新BOPでの経験を生かしている児童も少なからずいるのかもしれませんが。

3月は卒業の季節です。本校が掲げる「みんなで楽しく みんなが楽しく」という言葉のもとに、子供たちは多くのものに挑戦し、みんなのために頑張りました。子供たちの手で作り上げた松沢小学校の文化は、卒業する6年生から下級生にしっかりと引き継がれることでしょう。

「人格の完成をめざして」3月のテーマ	生活目標
<p style="text-align: center;"><b>感謝</b></p> <p>私たちを見守り、支え、育ててくれている人たちに、感謝の気持ちを伝えていますか？</p>	<p style="text-align: center;"><b>感謝の気持ちをあらわそう</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○お世話になった方々に感謝をこめて挨拶をしよう。</li><li>○みんなのものを大切にして、次の友達にひきわたそう。</li><li>○心をこめてあいさつをしよう。</li></ul>